



晴天が続き、ヨシが乾いた年はきれいに燃える。



# 田山川のヨシ焼き

コウノトリが訪れる豊かな湿地  
地を這う炎が新たな息吹をもたらす

豊岡市城崎町戸島地区では、毎年4月の第2日曜日に「ヨシ焼き」が行われます。3万平方メートルに渡り、田山川の河川敷を覆い尽くしているヨシは、この春の恒例行事で一気に焼き尽くされます。

本格的にヨシ焼きが行われるようになったのは、昭和40年代から。それまで一帯は、背の低い草が生えている程度で、子どもたちが野球をして遊ぶような原っぱでした。というのも、当時、戸島の各家庭では農作業用の牛を飼っており、河川敷は絶好の餌場だったそうです。ヨシは一部に自生するだけでした。しかし農機具の導入に伴い、牛を飼う家が少なくなつていき、次第にヨシが河川敷に根を拡げていったそうです。

2メートル以上にも成長し、うっそうと茂るヨシ原は、野ネズミやマムシなどの格好の住処。また、病害虫発生の原因にもなります。戸島では、ヨシの中で越冬している病害虫の駆

除と、新芽吹きを促すために、ヨシ焼きを始めました。以来、毎年かささず行われており、田山川の春の風物詩にもなっています。

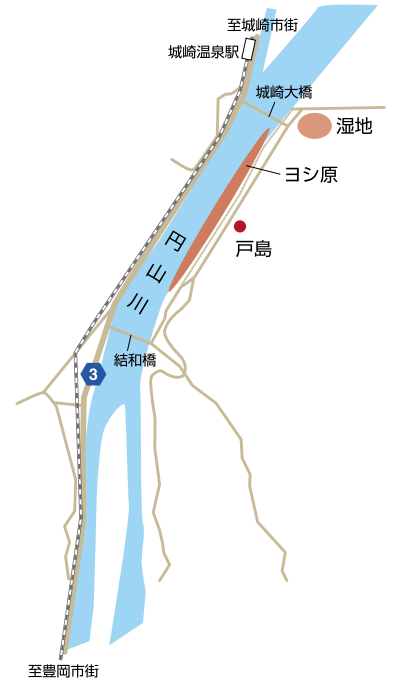
広大なヨシ原が燃え上がる景観は圧倒的な迫力。下流側から点火された火は、北風につつまみみる内に上流側へ。早ければ1時間半ほどで焼き尽くしてしまうそうです。時に5メートル以上も炎があがり、カメラマンたちも思わず後ずさり。真っ赤な炎が川面や見物人たちの顔を赤く染め、黒煙が空を覆います。聞くだけでもハラハラしてしまう光景ですが、待機している消防団が消火作業にあたったことは、これまで一度もないそうです。(雨天、強風時にはヨシ焼きを見合わせることもある)

最近、ヨシは、水質悪化の原因といわれている窒素やリンを吸収して育つことが分かりました。成長したヨシ

を焼き、新芽の成長を促すのは水質浄化にも繋がるといわれています。そういったことも影響しているのか、戸島の湿地には希少種の水草「ミズアオイ」やトゲウオ科の「イトヨ」などが生息しています。また、コウノトリやハクチョウが度々飛来しているそうです。現在、この希少な動植物の宝庫である場所を湿地公園として整備する計画が進んでいます。

道路脇の水路には、数十年前と変わらないメダカやドジョウの姿。自然豊かな但馬では当たり前のようであり、実は貴重なこと。今年もヨシ焼きの風景が春の訪れを告げると共に、豊かな但馬の自然を再認識させてくれるでしょう。

協力・写真提供 豊岡市城崎総合支所  
協力 国土交通省豊岡河川国道事務所



焼き尽くしてもヨシの根は湿土に残っている。

シを焼き、新芽の成長を促すのは水質浄化にも繋がるといわれています。そういったことも影響しているのか、戸島の湿地には希少種の水草「ミズアオイ」やトゲウオ科の「イトヨ」などが生息しています。また、コウノトリやハクチョウが度々飛来しているそうです。現在、この希少な動植物の宝庫である場所を湿地公園として整備する計画が進んでいます。

## まごころ1番店を目指す!! 不動産のライフフィット!



株式会社 ライフィット

<http://www.lifit.jp/>

- (社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許 兵庫県知事(3)650061号
- ご希望の物件を検索できます。詳しくはホームページをご覧ください。
- 大好評! 情報誌「ライフフィットタイムズ」無料進呈中!!

アパート・マンション・貸家・土地・中古住宅・店舗の売買など、なんでもライフフィットへお気軽にご相談ください。

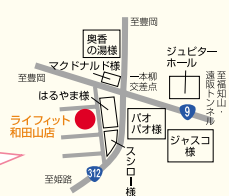
**本店**  
豊岡市幸町4番4号  
TEL.0796-24-2011  
FAX.0796-24-2077  
E-mail:nfo@lifit.jp

**豊岡駅前店**  
豊岡市大手町1番27号  
TEL.0796-26-6565  
FAX.0796-26-6566  
E-mail:tekimae@lifit.jp



土・日曜も営業しています!  
お気軽にお立ち寄り下さい!

**和田山店**  
朝来市和田山町玉置1107-4  
サンライズ和田山102号  
TEL.079-672-6565  
FAX.079-672-6566  
E-mail:wadayama@lifit.jp



# 但馬街道



## 藤和峠

ふじわとうげ

【朝来市和田山町奥～藤和】

樹齢650年の由緒ある神木  
ひっそりと湧く山間の名水：  
つづら折りの坂道が  
山あいのかくれ里へ延びる



人将軍スギの幹は12本にも分かれている。近年、腐敗のため幹に葉が塗られ、扉で覆ってある。

藤和がわけあつてこの地に隠棲しました。自分より先に仮住まいをしていた藤原正司がいたことを知りました。藤和は正司が自分の遠祖と同姓であること



(左)山あいにある藤和地区(右)峠の東側にある湧き水「夏谷の名水」は自由に持ち帰れる。コーヒーにするとおいしいと、遠方から汲みに来る人も。



地元の古老は、歩いてふもとの村まで下りていたことを懐かしそうに話してくれました。藤和峠は、今も昔も藤和の人たちの暮らしを支える大切な生活道です。協力 国土交通省豊岡河川国道事務所

朝来市和田山町312号線から、加都の交差点を西へ曲がり、のどかな田園地帯を進んでいくと、藤和峠に続く山道があります。幾重にも折れた坂道は、山あいの藤和地区へ。標高350メートルの土地に、現在21世帯が生活しています。まさに隠れ里というのにふさわしい集落。入り口付近に来ると、道路脇のスギ林の中に、どんと構えた巨木があります。太い幹は四方八方に

枝分かれし、まるで森のように雄壮な姿。兵庫県の郷土記念物に指定されている藤和の「大将軍スギ」です。このスギには、藤和の由来ともなる話が伝えられています。文和2(1353)年、丹波国佐治山垣城主の足立遠政の長子、足立



峠に安置されているお地藏様は、行き交う人を見守っている。

現在の「大将軍スギ」に成長したと伝えられています。このことを裏付けるように、今も

因縁を感じ、正司の墳墓を「大將軍」と尊称しました。そして、墳墓の側にスギの木を植え、神木としてあがめたのが、



お客さまの目線で  
お客さまを最優先に  
ありがたい気持ちを込めて

Together With You

地域とともに発展する  
但馬銀行